

研究・調査報告書

報告書番号	担当
433	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of heart failure: a meta-analysis. 飲酒量と心不全リスクについて；メタアナリシスから	
執筆者	
Padilla H, Michael Gaziano J, Djousse L	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Phys Sportsmed. 2010 Oct;38(3):84-9	
キーワード	
心不全、飲酒量、栄養、食事、疫学	
要 旨	
目的： 心不全は高齢者の間では頻度が高く、高額な治療費を要する。心不全を引き起こす要因が分かれば、予防上有益である。飲酒は心血管疾患の危険因子であることが明らかになってきている。多くの研究が、大量飲酒と心筋症の正の相関を示しているが、常飲ではない、または、少量から中等量の飲酒量と心不全リスクとの関係はあまり検討されていない。そこで、様々な飲酒量と心不全発症との関連を調べた。	
方法： PubMed の検索で得られた6の研究を対象にメタアナリシスを行った。飲酒量は飲んだことがない（未飲酒者）、飲んでいたが止めた（過去飲酒者）、現在飲酒者（1週間あたりの飲酒量0.1-0.9杯、1-7杯、8-14杯、14杯以上）に分類した。	
結果： 未飲酒者に比べて、相対危険度はそれぞれ、過去飲酒者 1.16 (95%CI 0.90-1.51)、0.1-0.9杯 0.90 (95%CI 0.83-0.98)、1-7杯 0.80 (95%CI 0.73-0.88)、8-14杯 0.78 (95%CI 0.65-0.95)、14杯以上 0.77 (95%CI 0.63-0.95)であった。	
結論： これらのデータから常飲ではない、または、少量から中等量の飲酒量は心不全の低リスクと関連していることが示唆された。	